

れいめい

〒869-0502

熊本県宇城市松橋町松橋1455番地1

TEL 0964-32-3111

FAX 0964-32-3112

http://www.reimeikai.jp/

2012年1月（春号）

宇賀岳病院理念

誠実な医療を実践し地域に貢献します

基本方針

- ・地域のニーズに応える
- ・安全な医療の実践
- ・魅力ある職場づくり



日本医療機能評価機構

新年を迎えて



社会医療法人黎明会
宇賀岳病院理事長
清水 寛

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

我が国は、昨年、東日本大震災、それに続く福島第一原子力発電所の事故により、2万人弱の人々が犠牲となり、多くの被災者が家や仕事をなくしました。国の借金は1,000兆円に達し、GNPは中国に越され第3位となり、1ドル70円台の円高が続くなど社会、経済面で大きな出来事が起こった年でした。

世界的には「アラブの春」と称されるアラブ諸国の政権崩壊の連鎖、ギリシャに端を発したEUの財政不安、タイの洪水やトルコ、ニュージーランドの地震の天変地異など、大きな嵐が世界の政治、経済、金融を混乱に陥れています。

これらの影響は医療界にも及び、我々の日々の診療にも計り知れない衝撃を与えることになるかもしれません。

このような中、宇賀岳病院は救急告示医療機関として、又、災害拠点病院として宇城保健医療圏の救急医療及び災害医

療の中心的な役割を果たしています。

救急車の搬送患者は増加の一途を辿り、地域住民の方々から信頼され期待される存在になっています。公益性の高い活動により、昨年は県内2番目の「社会医療法人」に認定され、「日本医療機能評価機構のver.6」を取得するなど、県内でも有数の「質の高い医療」を提供する医療機関として認められました。

今年も念願であった新病院が竣工し、10月1日には新病院へ移転、開院を予定しています。

このように宇賀岳病院が地域の方々の信頼を得て、安全で質の高い医療を提供できるのも、ひとえに職員の方々の昼夜を惜しまない日頃の活動の賜物であると考えます。年頭に当たって、皆様に感謝の意を表したいと思います。

さて、これから我々は、有史以来の超高齢社会に對峙していかなければなりません。そのためには「医療と福祉の統合」が不可欠になってくると思います。「治す医療」から「支える医療」へと目的が転換し、ケアの境目がなくなり、患者さんとケアサイクルに対応したケアネットワークの構築が必要です。具体的には、医療福祉に加え、生活支援を含めた「街づくり」が必要であると考えます。超高齢社会を直前に控え、現在の「医療」↓「介護」・「福祉」といった概念を、もう一度大局的な観点から熟慮し、今後さらに「介護」・「福祉」との連携を深め、病院機能の充実を図っていきたくと考えられています。



病院長
江上 寛

宇賀岳病院は今年で創設28周年を迎えます。病院は地域の皆様に支えられながら着実に成長しています。昨年はこれまでの病院の救急医療に対する業績が認められ、念願でありました社会医療法人成りを果たすことができました。あわせて新しい病院機能評価 Ver. 6 の認定も受けることができました。認定要件をクリアしてきた職員への頑張りに敬意を表すると同時に、地域の皆様方の多大なご支援に感謝申し上げます。民間病院ではありませんが、これまで二次救急指定病院、災害拠点病院、感染症指定病院などの公的役割を担ってまいりました。これからも公益性を重視しながら、皆様に良質な医療が提供できるよう努力を続けてまいります。

本年、病院は新築移転します。病院の建物にしましては老朽化が進み、地域の災害拠点病院、救急医療機関としての機能を確保するためには全面建て替えの必要が生じていました。そのような中で平成21年5月に医療施設の耐震化の推進を目的とした「医療施設耐震化整備事業」に関する制度

が創設され、当院もこの制度に則り全面建て替えを行うこととなり、現在建設を進めています。場所は国道3号線と218号線の交差点付近の松橋町久具「道の駅」隣接地です。今の病院の所在地が都市計画上の第一種低層住居専用地域及び第一種住居地域となっているため高層建築が困難なことから移転用地の確保を進め、災害時に多くの患者さんの受け入れや日常の救急患者さんの受け入れが円滑にできるなどの要件を満たす場所として数箇所の候補地の中から本年6月の完成予定です。最新の耐震性能を有し、わが国トップクラスの環境性能を有する病院になる予定です。省エネルギーや地域への環境負荷の少ない資機材の使用室内の快適性、景観への配慮など環境性能を重視した設計に取り組み、建築環境総合性能評価システムの最高レベルSクラスの認定をいただきました。関係各位のご努力に感謝申し上げます。将来に残すべき建物となると信じています。諸手続きを経て10月に移転の予定です。移転後、新病院は宇城総合病院へと名称変更いたします。

本年は病院にとりまして大きな節目の年となります。良質な医療を実践し、皆様に快適な療養環境が提供できるよう、そして地域の中核病院として皆様に愛される病院になれるよう全職員とともに心新たに頑張ります。本年もご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

病院機能評価 Ver.6.0認定

病院機能評価受審本にご苦勞様でした。

当院は、平成18年4月に Ver. 4 の認定を取得しましたが、認定期間は5年間であるため平成23年3月に Ver. 6 による更新を行うこととしました。

認定基準も前回からするとより厳格となり、Ver. 4 『取り組みと結果』から Ver. 6 『取り組みの評価・継続的な取り組み』に認定基準の見直しが行われました。

当院の取り組み体制は、院長をリーダーに機能評価対策室を中心に領域ごとにリーダーを決め、責任の分担と明確化を図り目標達成、領域間の調整、問題点や進捗状況の把握を行い受審の準備を行いました。

医療機関として病院機能評価受審は、大変な苦勞もあります。一方で、当院の全てを第三者に公表し、公正にチェック・評価していただく大事な機会と位置付けられます。

一方、機能評価取得は『目的ではなく、目的到達への手段である。』というのが基本的なスタンスです。その前提を踏まえ

た上で、受審を終えての感想ですが、まず、何と云っても、当院の機能・内容が評価に耐える一定以上の水準を満たしているという確認ができた事です。更に、それ以上に感じた事は、その過程において改めてチームワークの大切さ、職員一人一人の自覚、協力の重要性でした。みんなのベクトルが同じ方向に向かって努力する、そして達成する過程におけるみんなの頑張りに対し、心より感謝いたします。

今回の取得までの取り組みと努力は、当然これからも日常業務として継続していかねばなりません。今回の認定が職員全員の成果として、当院が一層活性化され、日々の業務向上と患者様へのサービスに繋がることを願い、また私達の目標である『患者様に選ばれる病院』、『地域に根ざした第一線の医療の提供』を目指し、更なる医療の質の向上を図ってまいります。

5年後の再々受審に向けて日々の積み重ねを怠らず、地域に評価される病院づくりを職員一丸となつてがんばりましょう。

機能評価対策室

環境にやさしい新病院

法人企画室 室長 中村 寧

新病院は、現病院の約1.3倍の規模、延べ床面積約14,550㎡、地下1階、地上4階の鉄筋コンクリート造の建物になります。

今回、新病院の建設にあたり様々な環境配慮技術を導入する予定です。代表的な対策として、自然エネルギーを活用した太陽光発電パネルの設置、自然光導入のためのトップライトの設置、恒常的な照明にLED電球を使用するなど、消費電力の節減に取り組むこととしています。

また、建物の窓ガラスには高遮熱 Low-E 複層ガラスを使用し、日射熱効果、紫外線カット効果、断熱効果が期待できます。冷暖房効果を高め、冷暖房費の節約による経済効果も期待しています。

さらに、周辺環境への配慮として、敷地内には、高木・低木を随所に植栽し、建物の屋上緑化も施します。

県では、地球温暖化防止への取り組みの一環として「熊本県建築物環境配慮制度」を導入し、平成22年10月1日から実施しています。この制度では、建物や敷地が環境に与える影響いわゆる建築性能について評価し、SランクからA、B⁺、B⁻、Cランクの5段階の格付けを行っています。評価は、省エネや環境負荷の少ない建材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮を含めた建物の品質が総合的に行われることになっています。新病院は、県内初のSランクの建物を目指しています。

このように、新病院は、患者の皆様はもとより職員にも快適に過ごせる空間を提供する環境にやさしい病院になる予定です。

「がん患者

外来支援センター」 の開設について

がん化学療法委員会

栗崎 貴

本院では地域医療の一環として、末期がんの患者さんの診療も積極的に引き受けてきた。その中で、がん告知されている患者さん本人は自宅での生活を希望しているが、家族が自宅では心配とのことと入院継続となっているケースをしばしば見受ける。疼痛のコントロールができていない場合や、全く食事摂取ができない場合は入院の方が患者さんにとっても苦痛は少ないと思われる。そうでない場合（食事摂取がある程度できている時は、比較的全身状態が良いことが多い）は、残り少ない貴重な時間を病院内で過ごすのはもったいないと感じられる。できるだけ自宅で過ごしていただきたいと思いつつ、そのために病院として何かお手伝いできないかと常々考えていた。一方病院側としては、末期がんの患者さんは、長い場合は数ヶ月を超える入院期間となつてしまふ、在院日数増加の要因のひとつとなっている。

このような諸事情により、緩和医療の一環として「がん患者外来支援セン

ター」の開設に至った。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、事務職員がメンバーとなり、在宅緩和ケアを計画的に行なうものである。本院での手術後の患者さんはもちろん、他院で手術・化学療法・放射線療法等を施行されたが、病状は進行し対症療法（支持療法・緩和ケア）となった松橋地域在住の患者さんが対象となる。医師と看護師が定期往診という形で在宅緩和ケアを支援する。急変時や在宅療養が困難となった際には、24時間体制の救急外来対応としている。悪くなつたら、何時でも病院に連れて行けば良いということで、患者・家族の安心感が少しでも増えることにより、在宅療養の期間延長を期している。

病院の居心地が良いのか？家庭の様々な事情もあり、「がん患者外来支援センター」の存在が浸透していないこともあり、在宅療養を希望される患者さんはそう多くはなかった。先日、記念すべき一例目があり、「がん患者外来支援センター」が本格的に稼働した。週一回の往診を行ない、亡くなる当日まで自宅で過ごされた。往診対応とすることで外来での長い待ち時間もなく、ゆつくりと主治医と面談できた。QOLの向上に少しは寄与できたのではないかと思う。

「がん患者外来支援センター」を積極的に活用いただき、末期がん患者さんのQOL向上に少しでも寄与できれば幸いです。

当院の栄養管理科の給食部門は、九州フードサプライセンター（本社 熊本市）に委託しており、私たち病院側職員と協力し栄養管理を行っています。今回、それら委託会社で作る「社団法人日本メディカル給食協会」の広報誌「笑食快膳」に当院新人管理栄養士の大淵さん（委託先）の思いを綴った文章が載りました。そのままご紹介したいと思います。

魅力ある職場作り

株式会社 九州フードサプライセンター 宇賀岳病院
大淵 美由希



私が給食受託会社の栄養士として働き始めて約3カ月が経ちました。現在は調理作業を主として検品等の栄養士としての仕事を行っています。入社した当初は毎日が新しいことばかりで、何をどうしたら良いのか分からず、学生との違いや社会人として働くことの大変さを身をもって感じる毎日でした。しかし、周りの方にたくさんご指導いただき、少しずつではありますが一つ一つの作業における意味を理解し働くことができるようになってきています。

私の勤務する病院では、病院側と委託側の両方から構成される委員会があります。教育委員会や衛生委員会そして私の所属する接遇委員会があります。接遇委員会では月目標を決めていますが、4月は「声をかけやすい職場環境になるように、言葉づかいや態度に気をつける」というものでした。これは、病院の基本方針の一つである「魅力ある職場づくり」につながるものであります。お互いに声をかけやすいというのは、仕事をスムーズに行う上でも重要な事です。食事サービスと栄養管理が一体となって初めて患者様の健康に繋がると思っています。そのためにも栄養科全体が同じ目標に向かい、一体となる

事が大切です。その一環として、先日栄養科のスタッフの懇親会「お花見」が行われました。当日は願いもむなしく雨が降ってしまい桜の花の下での花見とはいきませんでした。せっかくの機会ということで室内で行われました。その「花見」には栄養科だけでなく、病院の院長先生をはじめ、医師、管理職の方などたくさんの方が参加して下さいましたことに驚き、普段挨拶を交わす程度であったのが、少しの時間ではありましたがお話が出来て楽しい時間を過ごせました。また、同僚との繋がりも更に深まったように思います。

この様に単なる親睦会ではありましたが、病院の組織の一部に「栄養科」は確実に根付いていることが分かり、とても感動したと同時に、この栄養科の中で働いていくことの責任を感じ、身の引き締まる思いでした。

最後に栄養科内ではもちろん病院全体が一体となって患者様の疾病の回復・健康維持に努めていかなければなりません。このことを肝に銘じて日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

釜山研修旅行体験記



2011年11月5日と6日の1泊2日で、宇賀岳病院初の海外研修旅行の第1班として、総勢23名で韓国の釜山に行ってきました。宇賀岳病院を出発しバスで博多港へ、この日のために作ったパスポートで出国手続きを行い、ビートル（高速船）で釜山へと出航。あいにくの天候ではありませんでしたが、船上で船酔いにもならず、無事釜山港に到着しました。建造物や周囲から聞こえてくるハンゲル語の会話や表示など日本とはまた違う雰囲気、国外に来たという実感が湧いてきました。そこか

ら現地ガイドとバスに乗り、観光（ショッピング？）へと出発、真っ先に免税店などショッピングスポットへ移動し、女性陣は有意義な時間を満喫しておられました。私を含む男性2名は時間をもてあますところでしたが、ガイドに案内され射撃場で人生初の実弾射撃の体験をしました。



り片手に語り合い過ぎました。2日目は、昼の出発時間まで自由時間となり、女性陣は更なるショッピングへ向かいましたが、男性陣は周囲を散策し、これだけは食べておこうと思っていたサムゲタンとアワビ粥を食し、韓国フードを満喫しました。充実した26時間ほどの滞在時間は瞬く間に過ぎ去り、14・15発のビートルに乗り、韓国を後にしました。博多港では23名全員無事に税関を通ることもでき、陸路を経て宇賀岳病院に帰り着くことができました。

食に関しては、昼食に石焼ビビンバを夕食にカルビ焼肉と、韓国料理の定番を味わい、食後は自由時間として、さらにショッピングを楽しまれる方、垢すりに行かれる方とそれぞれが限られた時間を楽しまれたかと思えます。ちなみに男性2名はホテルの部屋内でマッコ

くことができました。私自身、今回が初の海外であり、病院の研修旅行として、異国の文化に触れる機会を得たことに感謝します。

岩井 芳孝

題『当たる！ あたる！ アタル！』

(PN・若年ババア)



◆外来医師一覧表◆

平成24年1月24日～
平成24年1月24日更新

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	
外科	診療担当医	飽田 和博	江上 寛	松田 貞士	栗崎 貴	並川 和男	休診 〔救急対応〕	
	午後	手術・救急対応						
総合診療科 (外科系)	診療担当医		中野 章	中野 章				
	午後	病棟回診・救急対応						
整形外科	診療担当医	塩川 徳	井 賢治	大多和 聡	岡元信和(非常勤)	赤城 哲哉		
	午後	手術・救急対応						
内科	診療担当医	中村 亮斉	福田 秀明	小山田直朗	中村 亮斉	小山田直朗		
		米良 昭彦	盛 三千孝	米良 昭彦	采田 憲昭	福田 秀明		
			中村亮斉 (心エコー)					
	午後	病棟回診・救急対応						
神経内科	診療担当医			平原智雄(非常勤)				
循環器内科	診療担当医				午後 千年忠祐(非常勤)	午前 泉家康宏(非常勤)		
糖尿病センター	診療担当医	竹田 晴生	竹田 晴生	竹田 晴生	竹田 晴生	竹田 晴生		
小児科	診療担当医	AM	板井 義男	村上 幹彦	板井 義男	村上 幹彦		板井 義男
		PM	板井 義男	板井 義男	板井 義男	板井 義男		板井 義男
泌尿器科	診療担当医	中村 武利			中村 武利			
内視鏡検査担当医	AM	松田 貞士 小山田直朗	小山田直朗 栗崎 貴	栗崎 貴 飽田 和博	松田 貞士 飽田 和博	栗崎 貴 采田 憲昭		
	PM	飽田 和博 松田 貞士 栗崎 貴	小山田直朗	采田 憲昭	松田 貞士	栗崎 貴		
健診センター	診療担当医	AM	並川和男(予約制)	並川和男(予約制)	並川和男(予約制)			
リハビリテーション	AM	《受付時間》 9:00～11:30						
	PM	13:30～15:30						

受付時間 【平日】 8:30～12:00 (但し、泌尿器科11:30まで、整形外科11:30まで) 【土・日・祝日】 休診(救急対応)
《小児科夕診》 受付時間 月曜～金曜 14:30～16:30

新病院（宇城総合病院）の外観イメージ

